

米国金融政策（2025年9月FOMC）

昨年12月以来の利下げ、利下げ幅は0.25%pt

2025年9月18日

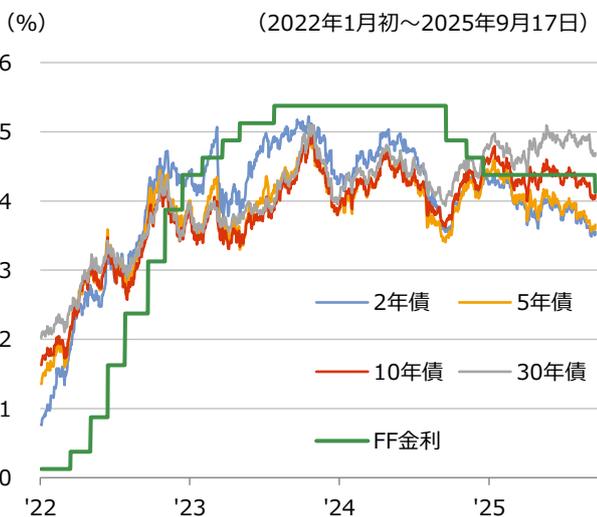
今回は「リスクマネジメント」の利下げ

FRB（米国連邦準備制度理事会）は9月16日～17日（現地）にFOMC（米国連邦公開市場委員会）を開催し、政策金利であるFF（フェデラル・ファンド）金利の誘導目標レンジを4.25～4.50%から4.00～4.25%へ引き下げることを決定しました。利下げは昨年12月以来6会合ぶりです。なお、16日に就任したばかりのFRB理事が0.50%ptの大幅な利下げを求め、反対票を投じました。そのほか、保有証券の縮小ペースは国債で月額50億米ドル、住宅ローン担保証券で月額350億米ドルを維持しました。

声明文では「雇用の伸びは減速」とした上で、「雇用の下振れリスクが高まった」と明記しました。パウエル議長も「もはや堅調とは言えない」と述べており、「雇用最大化」に対する下方リスクの高まりが利下げの主因です。他方、インフレについて、声明文では「上昇し、幾分高止まったまま」と指摘したものの、パウエル議長は「関税の波及は遅く、規模も小さい」と警戒姿勢を和らげました。注目のFOMC参加者の2025年末FF金利見通しは中央値で3.625%と、前回6月の3.875%から引き下げられました。

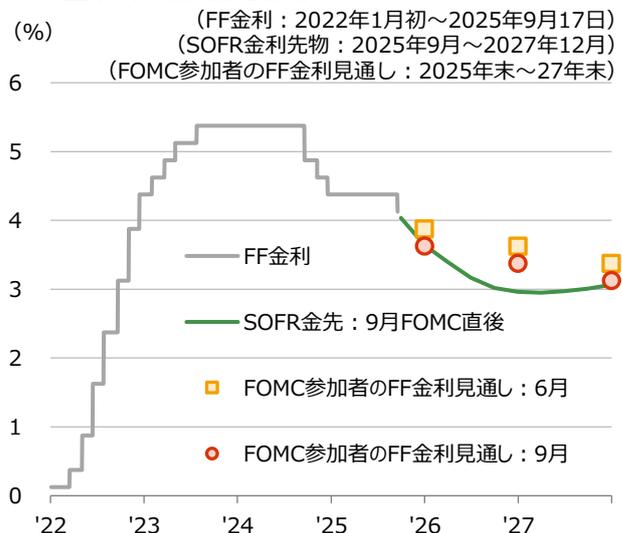
目先の利下げに一段と意欲を示したとはいえ、FOMCの決定は市場の織り込みに大方沿う内容でした。FOMC直後に各市場は上下したものの、株価は横ばいに落ち着き、金利は長期を中心に上昇しました。FOMC参加者の金利見通しでは年内残る2会合で各0.25%ptの利下げが示唆された一方、パウエル議長は「決定は会合毎の判断」としています。当面は雇用を始めとする各種経済指標に引き続き注目です。

FF金利と米国債利回り



※FF金利は決定日ベースで誘導目標レンジの中心値
(出所) ブルームバーグ

FF金利の実績と見通し



※FF金利は決定日ベースで誘導目標レンジの中心値
SOFRは担保付翌日物調達金利の略 (出所) FRB、ブルームバーグ

当資料のお取扱いにおけるご注意

- 当資料は投資判断の参考となる情報提供を目的として大和アセットマネジメント株式会社が作成したものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡しする「投資信託説明書(交付目論見書)」の内容を必ずご確認ください。
- 当資料は信頼できると考えられる情報源から作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。運用実績などの記載内容は過去の実績であり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。記載内容は資料作成時点のものであり、予告なく変更されることがあります。また、記載する指数・統計資料等の知的所有権、その他一切の権利はその発行者および許諾者に帰属します。
- 当資料の中で個別企業名が記載されている場合、それらはあくまでも参考のために掲載したものであり、各企業の推奨を目的とするものではありません。また、ファンドに今後組み入れることを、示唆・保証するものではありません。